

平成 24 年度 事業報告書

自 2012 年 4 月 1 日 至 2013 年 3 月 31 日



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目 次

I. 平成 24 年度 総括	1
II. 事業報告	2
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	3
4. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) 企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	8
(2) 企画事業課（指定管理事業：若者支援施設 5 館）	11
(3) こども育成課（指定管理事業：児童会館 104 館） （受託事業：ミニ児童会館 79 館）	13
(4) 野外活動課（地域活動等事業：野外活動事業） （自主運営施設：滝野自然学園）	16
(5) 野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	18
(6) 野外活動課（指定管理事業：定山溪自然の村）	20
(7) 野外活動課（指定管理事業：北方自然教育園）	22
(8) 市民活動課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設）	23
(9) 市民活動課（地域活動等事業：市民活動プラザ星園）	29
(10) こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	30
5. 契約に関する事項	33
6. こども基金（スマイルキッズ）協力者・助成対象一覧	34
III. 事務報告	35
1. 設立年月日	
2. 寄附行為に定める目的	
3. 寄附行為に定める事業内容	
4. 所管官庁に関する事項	
5. 主たる事務所の状況	
6. 役員等に関する事項	
(1) 理事会	
(2) 評議員会	
7. 職員に関する事項（事務局組織図）	37
(1) 主要な職員	
(2) 職員数	
8. 会計に関する事項	39

I. 平成 24 年度 総括

財団法人札幌市青少年女性活動協会は、その設立趣意書の中で、グループ活動を通じた事業活動を展開し、「先人に負けない開拓精神を持って、郷土札幌市の発展に寄与する」とともに「人情あふれる地域社会の確立に寄与する」ことで青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を図るため、様々な事業を行ってきたが、平成 24 年度は、昭和 55 年の財団設立から 33 年間、私たちが財団法人としての根本規則としていた「寄附行為」のもとで事業活動を行う最終年度となった。

その寄附行為では、法人の目的を「青少年女性を中心とするグループ活動の振興を図り、もって青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を図ること」としており、キャンプ事業などの野外活動や青少年女性関連諸施設の管理業務などをグループワークという手法をもって行ってきた。

本年度、当協会は、新公益法人制度の施行に伴う対応によって、公益財団法人として認定を受け、平成 25 年度から名称も新たに「公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会」となり、新しい定款のもとで再出発することとなった。

そして、新法人では、「人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与する」ことを目的とした。

職員 15 名からスタートした小さな財団法人は、何時しか 1100 名を超える職員を擁する規模へと成長し、その過程で起こった様々な出来事は、かけがえのない経験と貴重な財産となって今日の事業活動の基礎に深く刻まれている。これまでの 33 年間、当協会を支えてくださった多くの方々に感謝するとともに、この歴史と伝統を大切にしながら、新たな使命の達成に向かって、これからもその歩みを進めていく。



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

Ⅱ. 事業報告

1. 事業実施状況

平成 24 年度 事業基本方針	
1	グループワーク等を通じて、青少年の健全育成と男女共同参画社会の実現に寄与する。
2	市民活動の振興及び社会教育の推進に関する事業を通じて、魅力あふれる地域社会の発展に寄与する。
3	市民、地域、企業、関係機関とのネットワークをより強化し、目的を実現するための協働を推進する。
4	様々なニーズに対応した効果的な事業を展開し、専門性を生かした先駆的な事業に積極的かつ直接的に取り組む。
5	自主事業の拡大を図り、自主財源の確保により経営の自立性を高める。

2. 施設管理運営

(1) 自主事業 2 施設

- ・ 滝野自然学園
- ・ 市民活動プラザ星園

(2) 指定管理 115 施設

- ・ 若者支援施設 5 施設
- ・ 児童会館 104 施設
- ・ 青少年山の家 1 施設
- ・ 定山溪自然の村 1 施設
- ・ 北方自然教育園 1 施設
- ・ 札幌エルプラザ公共 4 施設 1 施設
- ・ こども劇場 2 施設

(3) 受託 79 施設

- ・ ミニ児童会館 (79 施設)

3. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況

【企画事業部】

課・施設	重点目標	数値目標
企画事業課 (イベント事業)	公益目的事業の重要性について共通理解を図りながら、当協会の認知度向上のための広報活動を積極的に実施し発信力を強化することに加えて、各分野の人材育成を他のセクションとともに推進する。	〈収入額〉 40,000 千円 〈年間事業数〉 55 事業以上
	【達成状況】 当協会他セクションとの横断的連携を図ることで、当協会の認知度向上と併せ、市民にとって有益な事業を展開することができた。	【達成状況】 〈収入額〉 47,756 千円 (119%) 〈年間事業数〉 62 事業(113%)
若者支援施設 (4 館)	職員の社会情勢を加味した専門性を確保するための自己研鑽を推進するとともに、若者支援総合センターと若者活動センター機能の更なる融合を目指した事業展開を行い、内部連携を強化する。	〈登録者数延べ〉 120,000 人 〈自立支援新規相談登録数〉 200 名以上
	【達成状況】 平成 24 年度は若者支援についてこれまで個別に展開していた三本柱(社会参画・交流促進・自立支援)事業を一元化し、それぞれの特色を双方向で活用しながら、更なる若者の活力と支援について模索、検証を始めたところである。 中高生など、若年時代から居場所として若者支援施設を活用することにより、ニート・引きこもりの未然防止と共に、将来の街を担う人材として社会に関わる土壌を設ける事業を展開、検証する準備ができた。 また、学校生活や社会人になっても、個人で行動する、いわゆる「おひとりさま」等の個人支援にも着目し、一人でも気軽に参加できる環境を構築するための事業も全館一斉に取り組んだ。10月に移転開館したポプラ若者活動センターや25年度4月に移転開館する若者支援総合センターは、施設の立地条件や構造的に、「立ち寄りやすさ」をアピールする施設としての事業を盛りこみ、次年度及び時期指定管理を見据えた事業展開に着手した。 さらに、全国的な見地の専門家や機関との連携も強化し、職員個々が「ユースコミュニティーワーカー」としての自覚を再認識し、各種事業に取り組む姿勢を構築した。	【達成状況】 〈登録者数延べ〉 169,860 人 (141%) 〈自立支援新規相談登録数〉 422 名(211%)

【こども事業部】

課・施設	重点目標	数値目標
こども育成課	<p>人とつながり、心が通い合う児童会館づくりを目指すため</p> <p>(1) 異年齢による遊びや豊かな体験をとおして子どもの生きる力を育む。</p> <p>(2) 関係機関と協力し地域の中の子育ての拠点をを目指す。</p> <p>(3) 子どものためのより良い運営をするためにサービスの向上を図る。</p>	<p>〈児童会館運営協議会〉 25 館設置</p> <p>〈利用者総合満足度〉 70%</p>
児童会館 (104 館) ミニ児童会館 (79 館)	<p>【達成状況】</p> <p>子どもたちの意見を取り入れることを目的として、子ども運営委員会メンバー主催の全館合同事業「げんキッズフェスティバル」を平成 25 年 2 月 24 日札幌ファクトリーで実施した。この事業は、北海道新聞社の共催による「子ども記者体験」のほか、遊びのブースの出店、ステージ発表をとおして、各会館の子どもたちの交流が図られた。</p> <p>また、札幌市長と代表の子どもたちとの意見交換の場は、子どもたちにとって大変貴重な経験となった。</p> <p>3 月 20 日北海道新聞の紙面において、事業報告および当財団の広告を掲載し、市民に広く P R をする機会となった。</p> <p>保護者が安心して働きやすい環境を整えるため、開設時間の延長を行った。延長時間帯のプログラムを工夫したことから、保護者の安心感や子どもの活動の広がりが見られ児童クラブの登録人数も増加している。</p> <p>今後も児童クラブ登録児童のみならず地域の方々にとってより充実した満足度の高い運営展開をすすめていく。</p> <p>このほか、札幌市による「児童会館のあり方検討」に併せて、当財団としても児童会館の必要性や健全育成のあり方について独自に検証し、札幌市へ提案した。</p> <p>次期指定管理に向けては、今までの地域とのつながりを大切に、さらにそのつながりを強固にし、地域にとって必要とされる児童会館づくりを目指していく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈児童会館運営協議会〉 内容の見直しも含め、未設置館で準備を進め、104 館中 53 館の設置となり、25 年度は全館の設置を計画。</p> <p>〈利用者総合満足度〉 平成 24 年度は地域の大人向けアンケートを実施し、総合満足度 78.3%で、大人から見た活動内容について評価をいただいた。</p> <p>〈その他〉 ボランティア、職員を対象に東京で活躍する N P O アフタースクールによる講演会を実施し、現代社会で子どもの抱える問題の再認識やボランティア活動の輪を広げる必要性を学んだ。</p>

【野外施設部】

課・施設	重点目標	数値目標
野外活動課	滝野自然学園の利用促進を図り、青少年山の家や定山溪自然の村との施設連携により、人材育成と野外教育活動の充実を図る。	〈利用料金収入〉 3,000 千円
	利用促進について、幼稚園・保育園及び野外教育団体等への周知を行い、冬季の団体利用増加に一定の成果があった。	【達成状況】 〈利用料金収入〉 2,570 千円 (85.7%)
青少年山の家	他の関係企業などと連携協力を深め、学校教育及び社会教育の課題解決に寄与する事業、宿泊学習や利用団体の活動プログラムに反映されるプログラム開発を含めた形で事業を実施し、その効果を広く周知する。	〈利用人数〉 77,000 人 〈利用満足度〉 80%以上
	【達成状況】 「なかよしキャンプ」においては、関係機関で構成する事業検討委員会を組織し、協働で事業を運営するプログラム開発を行った。また、「トライキャンプ」においては秋季のプログラム開発を行い、宿泊学習や利用団体のプログラムに反映する準備をすすめている。このほか、出前授業と当日利用対応の職員の連携強化を行い、スムーズな当日利用対応に繋げることを目指し、一定の成果をあげることができた。	【達成状況】 〈利用人数〉 82,902 人 (107.6%) 〈利用満足度〉 92.6% (12.6%増)
定山溪 自然の村	豊かな自然環境をもたらし「歴史・文化・産業」等に触れ、人的資源を含めた地域の特性を最大限に生かした事業運営を進める。 (1) 市民の野外活動の支援強化 (2) イベント及びプログラム企画内容の充実 (3) 事業 PR 活動の強化 (4) 自主公益事業の推進	〈ホームページアクセス数〉 40,000 件 〈自主公益事業収益〉 収益額の 24%
	【達成状況】 定山溪の豊かな自然環境を最大限に生かすため、複数開催の事業を増やした。また企画内容に、利用者の声やボランティア及び職員の試行・提案の結果を反映させることにより内容の充実を図ることができた。 広報では、ホームページ内容の刷新と掲載内容の充実を図ることにより、事業PRを強化した。また、新規の自主公益事業では、新たな可能性の開拓と、一部事業の財源確保を図ることができた。	【達成状況】 〈ホームページアクセス数〉 42,431 件 (106%) 〈自主公益事業収益〉 収益額の 26.5% (110%)
北方自然 教育園	ホームページ等による広報宣伝を積極的に進め、冬期間の入場者数の増や市民への周知度を高め、積極的に事業展開を図る。	〈利用者総数〉 20,000 人
	【達成状況】 ・ 広報宣伝、ホームページ等に関する管理の充実 広報さっぽろの掲載とホームページによる自然体験学習会実施及び募集の通年告知。 ・ 年間（特に冬期間）の入園者増 特別展示等を実施し来園者増の工夫を図った。	【達成状況】 〈利用者総数〉 19,391 人 (96.9%)

【市民参画部】

課・施設	重点目標	数値目標
市民参画課	<p>人とひととが結びつく、世代を超えた交流と学びあいのステーション</p> <p>(1) 事業成果の広報強化</p> <p>(2) まちづくり活動の担い手である市民の活動支援</p> <p>(3) エコ活動の推進と効率的な経費執行</p>	<p>〈年間総利用人数〉 580,000 人</p> <p>〈市民活動団体新規登録数〉 200 団体</p> <p>〈キッズページアクセス数〉 20%増</p>
札幌エルプラザ 公共 4 施設	<p>【達成状況】</p> <p>(1) 各施設の事業報告書冊子を作成し、事業成果の周知を行った。また、環境プラザキッズHP、情報センターHPのリニューアルを行ったこと、またフェイスブックやツイッターを活用し、事業の事前広報および成果の広報を強化した。</p> <p>(2) 地下歩行空間での活動発表イベントやメールマガジンなどでの団体紹介を拡充し、市民活動団体の広報支援の強化と交流促進を行った。</p> <p>(3) 継続的に実施している省エネ対策に併せて、計画停電に伴う札幌市からの省エネ要請により館内の照明の消灯やエスカレーターの停止などを行った。それにより前年度比 22%の節減となった。</p> <p>また、エネルギー使用量の減少に伴い発生した光熱水費の余剰は、市民活動団体の活動周知を行う掲示板の設置や、館内の室温等の冷暖房環境を整えるための空調設備を設置するなど市民サービスの向上のために執行した。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈年間総利用人数〉 670,927 人 (115.7%)</p> <p>〈市民活動団体新規登録数〉 155 団体 (77.5%)</p> <p>〈キッズページアクセス数〉 前年度比 258%</p>
市民活動 プラザ星園	<p>まちづくりの拠点・市民活動支援拠点として、地域への情報発信や入居者同士の交流を促進する。</p> <p>(1) 事業誘致による貸室利用率の向上</p> <p>(2) 市民活動サポートセンターのサテライト機能の充実</p> <p>(3) 協会内連携による事業推進</p>	<p>〈貸室稼働率〉 40%</p>
	<p>【達成状況】</p> <p>駐車場の縮小が一般の貸し室利用の低下に影響し、稼働率が上がらなかったが、事業誘致による貸し室利用は達成、また、就労支援等協会内連携による事業推進が図られた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈貸室稼働率〉 14.8% (37%)</p>

課・施設	重点目標	数値目標
こども劇場課	<p>人形劇等の創造拠点、児童文化の発信基地、ノウハウを生かした地域への積極的な文化支援と併せて継続的な被災地文化支援活動の実施。</p> <p>(1) 市民のための劇場づくり (2) 人材育成と創造型の劇場運営 (3) 最小経費で最大効果を (4) 児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化</p>	<p>〈年間公演数〉 200 ステージ (やまびこ座・こぐま座共通) 〈観客数〉 3%増</p>
やまびこ座 こぐま座	<p>【達成状況】(やまびこ座) 例年実施している元町北小学校アウトリーチ事業、砂川人形劇指導に加え、コミュニケーション教育事業、石狩管内の関係機関との連携事業「こども人形劇舞台祭典 inISHIKARI」などを積極的に実施し、外部に発信することができたことは、今後の事業の拡がりに大いに期待できる。しかし、観客数の減少、財源確保の方策など、喫緊で取り組まなければならない課題が多い中で、職員の意識転換を図り、誰のための、誰にとつての施設なのかを今一度見つめ直していかなければならない。人材育成事業については、東区市民劇団育成事業（オニオン座）が順調に活動している。子どもから大人までの演劇系の3事業がプロデュース公演を通してつながりができたことは成果として非常に大きい。また、義太夫講習会は参加者も多く活発であり、今後に期待が持てるところである。</p>	<p>【達成状況】 (やまびこ座) 〈年間公演数〉 224 回(112%) 〈観客数〉 16,561 人 * 前年度 18,511 人 * 前年比 89.5%</p>
	<p>【達成状況】(こぐま座) こぐま座という専門人形劇場としての特質、専門性、社会的役割を今一度見つめ直し、事業の根幹である育成事業を中心に据えた事業展開に取り組んだ年であった。将来において、札幌の人形劇文化を安定的なものにしていくためには、今現在の若い人たちへのアプローチが大変重要な鍵となる。</p>	<p>【達成状況】 (こぐま座) 〈年間公演数〉 235 回(117%) 〈観客数〉 10,366 人 * 前年度 11,152 人 * 前年比 93.0%</p>
法人全体	<p>公益財団法人への移行申請準備及び申請実施</p> <p>将来を見据える計画的な予算執行と消費税増税対応策の検討</p> <p>指定管理者制度に対する準備（第3期：平成26年度から）</p> <p>長期的な人材育成（研修等）の実施</p>	<p>〈寄付金収入〉 1,000 千円</p> <p>【達成状況】 586 千円 (58%)</p>

4. 各課（各施設）の事業実施報告

(1) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業、受託事業】

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
企画提案事業	「平成24年度札幌市下水道科学館フェスタ」の一部企画 運営業務	9/8、9 10,690名
	「さっぽろ水道フェスタ2012」企画制作・実施業務	6/23、24 約11,000名
受託型事業	「第64回さっぽろ雪まつり」関連業務	①10/1～2/28
	①さっぽろ雪まつり大雪像制作統括業務	②11/19～2/8
	②札幌市大通5丁目大雪像制作団指導業務	③12/6～2/11
	③つどーむ会場すべり台等制作業務	④2/5(他6回)
	④つどーむ会場すべり台等運営業務	約45万人
	⑤つどーむ会場ステージ運営業務	⑤2/5(他6回)
	「わくわくタッピーランド」における雪像等の制作 及び運営業務	12/28～2/11
	第12回さっぽろパフォーマンスカーニバル 「だいどんでん」実施業務	8/30(他2回)
	こどものまち「ミニさっぽろ2012」関連業務	①9/29(他4回)
	①事業指導・運営業務	約3,500名
	②ブース運営用品調達業務	②9/28
「21世紀東アジア青少年大交流計画」関連事業	①インドネシア訪問団	①4/19～24 25名
	②インド訪問団	②6/13(他4回)
	24名	
	「札幌駅前通地下歩行空間イベント」 木のおもちゃコーナー実施業務	3/27～4/1 480名
	「講師派遣・指導業務」	①4/19(他16回)
	①札幌幼児保育専門学校非常勤講師派遣業務	延べ約200名
	②発寒幼稚園体操教室講師派遣業務	②4/24(他10回)
	③「ぴかりん体操」指導業務	延べ約2,000名
	④「子どもサポーター養成講座」基礎編及び実践編指導業務	③5/3(他6回)約200名
	⑤札幌第一幼稚園運動会講師派遣業務	④5/21(他3回)
「札幌市水道記念館リニューアルオープン5周年記念行事」	⑥「発見おもしろ教室」体験参観日あそびコーナー運営・管理 指導業務	延べ45名
	⑦平成24年度中央区連携講座「夏休み親子手づくりおもちゃ 講座」への講師派遣	⑤6/23 約1,800名
		⑥7/1 約2,000名
		⑦7/27 43名

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
受託型事業	「もいわ山関連事業」	①5/13 約 360 名
	①「もいわ山ヒルクライムラン531」企画実施業務	②8/30(約 5 回)
	②「もいわ山小学校体験学習プログラム」の運営業務	約 1,200 名
	③「もいわ山ロープウェイ雪あかりの広場」運営補助業務	③2/2～17 1,844 名
	「円山動物園関連事業」	①7/25(他 6 回)
	①「トワイライト ZOO」運営協力業務	105 名
	②「ZOO ナイトキャンプ」実施業務	②8/9～10 32 名
	③「冬の ZOO ナイトキャンプ」実施業務	③1/10～11 17 名
	「洞爺湖・夏の冒険王」企画運営管理業務	8/2～3 30 名
	「厚別区子どもまつり」に係る迷路制作業務	9/2 約 1,500 名
	「大倉山夏まつり」子ども遊びコーナー運営業務	8/18 2,000 名
	「第 23 回幌北ふるさと夏祭り」ステージ運営業務	7/28 約 2,000 名
	「平成 24 年度子どもの権利の日」に係る啓発事業の実施業務	11/17 106 名
	「平成 24 年度札幌市青少年育成大会」運営業務	11/10 約 300 名
	「札幌市中央卸売市場イベント『消費拡大フェア』」	9/30 約 10,000 名
	「平成 24 年度うきうきサマーパーク」運営業務	8/1～2 約 300 名
	「第 2 回たまねぎフェスタ」における札幌黄 PR 事業に係る巨大迷路管理運営業務	9/15(他 2 回) 1,581 名
	「世界タバコ学会」縁日コーナー実施業務	9/25 約 300 名
	「J R 白石駅イベント補助業務」	10/13 約 400 名
	「2012 よく遊びよく学べアート展」牛乳パック工作コーナー運営業務	10/20～21 約 60 名
	「歩くスキー出前授業」実施業務	1/15(他 12 回)754 名
	「創成川公園サンキューフェスティバル」管理運営業務	9/2
	「SORA こそだてフェスティバル 2012」遊びコーナー運営業務	12/15 3,680 名
	「キズナ強化プロジェクト」インド訪日団受け入れ業務	11/30(他 4 回) 25 名

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
受託型事業	「第7回とよひらおもしろスノーパーク」 学生企画コーディネート業務	2/17
	「NHKわくわくネイチャーランド」運営管理業務	2/9(他2回) 約1,000名
	「新さっぽろ冬まつり2013」会場作成および管理運営業務	2/2～3 約3,500名
	「西区ウォームシェア in ちえりあ」実施業務	2/9 約400名
	「西区文化フェスタ2013若者企画」コーディネート業務	1/4～2/28
	「スポーツキャンプ」	8/1～2 18名
活動支援事業	「物品提供業務」 ①第2回新陵東小学校おやじサミットへの物品提供業務 ②株式会社プランニング・ホッコー物品提供業務 ③青年女性協議会への物品提供業務 ④株式会社ノヴェロへの物品提供業務 ⑤北広島市観光協会への物品提供業務	①7/29 ②8/4(他1回) ③8/9～10 ④9/29～30 ⑤2/3
広報事業	「広報事業」 ①こども情報紙「あそぼ」の発行 ②協会内部広報紙「きょうかいナウ」の発行 ③「福島リフレッシュ・サマーキャンプ」写真展 「広報関連人材育成」 ④ネット配信向け 動画制作講座 ⑤MC講座 ⑥チラシおたよりポスター講座	①全6回 各10万部発行 ②月1回 ③10/11～31 約2,400名 ④4/26他6回 80名 ⑤11/21他4回 60名 ⑥3/5他2回 30名
その他	「洞爺どうや！カヌーキャンプ2012」	7/30～8/1 20名

(2) 企画事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

①若者支援総合センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自立支援事業	「ワーカーズファーム」 クラス制のグループワークでコミュニケーションスキルの向上を図り、体験を通じて就労イメージを具体化していくことを目的に実施。自己の振り返りや直接的なキャリアプログラムを行い、就職活動の下地作りを目指した。	毎週火・金 (4ヶ月間) 46名
その他事業	「移転閉館イベント」 若者支援総合センターの移転に伴い、施設の閉館イベントを実施。円山勤労青少年ホーム時代からの写真展示や、施設利用者が主体となったカフェの運営やライブイベント等を実施した。	3/17 55名

②アカシア若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参画講座	「たまねぎフェスタ」 札幌の特産である玉ねぎ「さっぽろ黄」の PR 事業『たまねぎフェスタ』に若者が参加。出店メニューの考案・販売。遊びの企画運営等、1ヵ月の準備期間を経て、それぞれのノウハウや経験を生かし、事業に参画することのやりがいや楽しさを実感する事業。会場:さとらんど	準備:8~9月 (全7回) 当日:9/15~17 延べ1,621人
若者交流促進	「be cafe」 教育大学札幌校のメンバーが主で構成されている、学生団体「waga」が実施している高校生のためのコミュニティカフェを支援。 会を運営する大学生、参加する高校生共に学びあう場となった。	5月から毎週木 延べ311人

③ポプラ若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	「市長とおしゃべりしませんか」~若者がコーディネートするまちづくり~ 『まちづくりと若者』をテーマとし、地域活動に関わった若者の事例発表をもとに、地域の方々やまちづくりセンター所長と、意見交換を行う。意識や考えを共有し、そこから見えてくるまちづくりについての課題や今後の展望について市長の考えやご意見、アドバイス等をいただく。	10/5 登録者:14名 一般:30名
交流促進事業	「YOUTH EXPO in 地下歩行空間」 平成24年10月にポプラ若者活動センターが移転オープン。これを記念し、若者施設の登録団体や貸室利用団体と協力し、施設のPRをかねたオープニングイベントを展開。ダンスや音楽演奏など、若者の活動の発表の機会も併せて実施した。会場:札幌駅前地下歩行空間 他	10/13 参加人数:55名 観覧者・若者:800名 一般:545名

④豊平若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	「若者舞台芸術祭 2013『Sapporo MixArt』」 豊平若者活動センターやENGINE-LINK、若者サポーターを中心に実施。主に社会人で構成された既存の劇団と他ジャンルのコラボレーション。演劇素人の高校生等の参加による協働創作をとおり、新たな舞台芸術創作発表の機会を展開し、若者の交流促進をはかる。	3/9～10 全3公演 若者・スタッフ・出演 147名 観劇 368名
社会参画促進事業	「中・高生向けイベント『とよひらっぴーフェスティバル 2013』」 若者活動センターと児童会館の共催事業。中・高校生が主体となり「やりたいこと」を中心に企画から携わり、社会人・大学生がサポートすることで、共に成長。異年齢交流を通し、高校生の次の居場所づくり、児童会館の「ふりーたいむ」との連携を模索検証する機会にもなった。	3/20 202名

⑤宮の沢若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	「ちえりあ子ども盆おどり」 地域の町内会で実施する盆おどりを協働で開催。当日は、札幌市青年団体協議会と連携し縁日コーナーを実施。施設を利用する若者たちがボランティアスタッフとして遊びのコーナーを運営するなど、地域住民との世代間交流を図る。	8/11 400名参加
交流促進事業	「ミニワークショップ」「ギターワークショップ」 囲碁・ギター・スポーツ・TVゲーム等、各回ユースワーカーの特技を生かしたテーマを決めて行う。気軽に参加できるようプログラム。	9～3月 (月2回程度) 延べ30名

内 訳	総合	アカシア	豊平	宮の沢	ポプラ	合計
自立支援事業	15,449	0	0	0	0	15,449
若者	11,905	0	0	0	0	11,905
一般	3,544	0	0	0	0	3,544
交流促進事業	100	1,724	2,287	4,643	1,661	10,415
若者	96	1,503	2,137	1,108	1,070	5,914
一般	4	221	150	3,535	591	4,501
社会参加促進事業	502	8,556	1,948	12,350	1,173	24,529
若者	476	1,633	1,881	5,097	1,015	10,102
一般	26	6,923	67	7,253	158	14,427
ロビー利用	1,520	1,872	694	17,007	999	22,092
若者	1,445	1,715	694	15,348	826	20,028
一般	75	157	0	1,659	173	2,064
貸室利用	21,592	48,495	31,406	66,555	3,229	171,277
若者	16,913	41,112	26,915	34,199	2,772	121,911
一般	4,679	7,383	4,491	32,356	457	49,366
合計	39,163	60,647	36,335	100,555	7,062	243,762
若者	30,835	45,963	31,627	55,752	5,683	169,860
一般	8,328	14,684	4,708	44,803	1,379	73,902

【各施設前年度比】 [112.4%] [106.4%] [100.1%] [102.1%]

※ポプラ若者活動センターについては施設移転の為、年度途中に開館した為、統計数は10～3月の6ヶ月分。(前年度対比なし)

(3) こども育成課【指定管理事業：児童会館 104 館】

【受託業務：ミニ児童会館 79 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
読書活動の推進・ 図書環境整備	「読み聞かせ活動の実施」 読み聞かせ事業や子育てサロン、日常活動等において読み聞かせ事業を実施。	2,067 回 52,864 名
	「講習会・発表会」 子どもたちの意欲、達成感を引き出すことを目的とし、講習会やその成果を発表する機会を設けた。その他、誕生日会や活動記録展などを実施した。	730 回 20,473 名
日常活動・体験 活動の充実	「観賞会」 子どもたちの情操を育む事業として人形劇や演劇の鑑賞、読み聞かせ等の事業を実施。	849 回 34,068 名
	「社会奉仕活動」 地域社会の一員としての自覚を持ち、人とのつながりの大切さを学ぶ。(ゴミ拾い等の清掃活動、施設訪問、共同募金、小さな親切運動、チャリティーバザール、防犯・防火運動など)	145 回 2,750 名
	「交流活動」 同世代、世代間交流、国際交流等からさまざまな人とかわることで自分自身を高める機会を提供。 (お泊り会、各ブロック合同行事、老人ホーム等施設訪問、高齢者などから芸能等を習う世代間交流事業など)	6,238 回 289,103 名
	「季節事業・パーティー」 日本の四季の移り変わりや自然の風土を感じる心を育む事業。(節分、ひな祭り、七夕、花火大会、雪まつりなど)	1,127 回 63,374 名
	「野外・自然体験活動」 自然とふれあいさまざまな体験活動の中で生きる知恵を育む。(キャンプ、畑づくり、炊事遠足、登山、ハイキングなど)	765 名 15,260 名
	「伝統芸能活動」 日本の伝統文化に対する興味・関心を引き出し、より良い文化を受け継いでいく心を育む。(伝承あそびや生け花、茶道教室、将棋教室、書道、太鼓などの体験活動など)	2,030 回 30,460 名
	「体力増進・スポーツ」 スポーツをとおして健康の増進を図り、人とかわる上でのルールを身につける。(鬼ごっこ、かけっこなどの日常遊びの他、ドッジボール、なわとび、一輪車等会館行事にも取り入れた)	2,026 回 45,188 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
その他	「子ども運営委員会」 子どもたちの意見や要望を反映させた会館運営を目指し、各会館に子ども運営委員会を設置。子どもたちの自主性や創造性を育て、主体的な活動の充実を図る。	9,889 回 84,044 名
	「危機管理事業」 万が一の災害に備えて、利用者の安全確保のために危機管理の徹底を図る事業。自然災害等緊急時の対応確認、避難訓練、不審者訓練などを各会館で実施。また、日常活動における事故防止のため施設内外の環境整備に努めた。	507 回 20,091 名
	*その他 「創作活動」、「学習活動」、「リーダー育成」、「環境に配慮した事業」、「合同行事」他	2,884 回 88,758 名
中・高校生の利用の促進	「中・高校生夜間事業」 中・高校生の居場所づくりとして「ふり~たいむ」を実施。豊平区では若者活動センターと連携し、事業を行い中・高校生と若者の交流を進めた。	10,354 回 91,622 名
子育て支援事業	「子育てサロン」他 遊びや他者との交流をとおして安心して育児ができる関係を築く、乳幼児と保護者に対する子育て支援事業。	8,839 回 420,587 名
児童クラブ	放課後留守家庭の子どもたちの「育ち」を支援。保護者と職員の連携を深めるため、定期的に保護者懇談会を開催した。	児童クラブ在籍数 9,817 名 (H25 年 3 月末現在)
障がいのある児童の受け入れ	保護者、関係機関と連携し、地域の子育ての拠点として、障がいのある児童と健常児が共に育ち合う環境づくりに努めた。	*
周年行事	地域還元事業として各会館の周年事業を実施。 【10 周年】真栄小ミニ、厚別北小ミニ、星置東小ミニ 【20 周年】エルムの森、栄通、上野幌、西岡高台、常盤、平和 【30 周年】平岸、西岡、藤野、屯田、西野 【40 周年】北郷	*
広報活動	より利便性の高い広報媒体を目指しホームページをリニューアルした他、外部の団体と連携をした全市的事業を実施する中で、新聞広告等で活動を広く P R した。	*

【利用状況】

(人)

区 分	開館日数 及び回数 (延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	30,784	2,183,124	208,936	1,135,115	327,684	109,008	71,045	331,336
ミニ児童会館	19,820	931,334	4,722	738,298	172,520	777	217	14,800
占用利用	12,811	189,537	10,093	36,808	44,931	17,554	5,949	74,202
総 利 用		3,303,995	223,751	1,910,221	545,135	127,339	77,211	420,338

総利用人数(前年度3,276,438人・前年比 99.17%)

■児童クラブ在籍数

(人)

区 分	平成24年4月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	平成25年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	3,287	2,952	2,325	1,039	279	17	9,899	11,487	1,670	3,543	2,928	2,168	910	250	18	9,817

4月末日現在の在籍数の比較(前年度9,408人・前年比105.22%)

■学校からの直接来館届出数

(人)

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
クラブ員の兄姉	0	1	24	131	127	106	389
特別支援学級等	8	4	3	5	10	4	34
特認校	47	31	31	27	15	0	151
計	55	36	58	163	152	110	574

(前年度644人・前年比89.13%)

■障がい児受け入れ数

(人)

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	内 訳	
								クラブ	直来
普通学級	73	70	74	49	31	10	307	237	70
特別支援学級	64	43	49	36	62	29	283	139	144
特別支援学校	1	0	0	0	0	1	2	2	0
計	138	113	123	85	93	40	592	378	214

(4) 野外活動課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主運営施設：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自主運営施設	【滝野自然学園】 将来的な自然学校化を目標に、活用できるプログラムの開発を積極的に実施。廃校校舎の再利用という特色を前面に出し、環境に配慮した形のプログラム提供と管理運営を実践した。	通年 91 団体 5,171 人
財団主催事業 (野外活動事業)	「たきの森のようちえん」 2歳から就学前の幼児とその保護者を対象とした自然体験活動を実施。豊かな自然環境の中で子どもたちがのびのびと過ごし、自然と人との関わりをとおり、優しさと生きる強さを育む。	通年 (日帰り 20 回) 延べ 575 名
	「たきの森のがっこう」 小学生を対象とした自然体験活動プログラム。自然の中での活動をとおり、自然の営みや面白さに触れ、人と自然との密接なかわりを体験的に学ぶ機会となる事業を実施した。	通年 (日帰り 5 回、 宿泊 4 回) 延べ 217 名
	「大人のための自然学校」 滝野自然学園平日利用促進の一環として、シルバー世代や主婦、平日休暇の方を対象とした体験型事業を実施。大人がのびのびと自然に触れ、感じるができるプログラムを提供。	通年 (日帰り 9 回) 86 名
	「リトルキャンプ」 自然体験活動プログラムを通し、新しい仲間との出会い・協力・目的達成までの過程で自立心や協調性、社会性をはぐくむ事業。	8 月 2 期実施 (2 泊 3 日) 77 名
	「お父さんと過ごす週末キャンプ」 小学生と父親を対象とした宿泊型の自然体験活動。希薄となりがちな親子間のつながりや取り巻く生活環境を見つめ直す事業。	7 月・1 月 2 期実施 (1 泊 2 日) 35 組 80 名
	「被災地支援事業・リフレッシュキャンプ」 福島県の小学生(4～6 年生)を対象にしたキャンプ事業。転地療養を含めたリフレッシュを主な目的とし、北海道の自然の中で、少しでも日常を取り戻してもらうことを目的として実施。	8 月(8 泊 9 日) 3 月(7 泊 8 日) 59 名
	【その他指導事業】 自然体験活動やレクリエーション、各種指導者の養成、リーダー養成等を目的とした企業や団体の業務依頼のもと、実技指導、講義、講演活動をとおり、よりよい社会作りに寄与する。 (平成 24 年度実績) ・さぼーとさっぽろ親子レク (札幌市中小企業共済センター) ・クボタ E プロジェクト (北海道クボタ) ・市民・留学生交流事業 (日本国際教育支援協会) ・福島の子ども保養プロジェクト (コープさっぽろ)	通年 173 名

■滝野自然学園利用人数

	延べ人数(人)	実人数
4月	231	114
5月	329	301
6月	496	426
7月	933	543
8月	1,258	908
9月	480	369
10月	326	248
11月	254	187
12月	89	89
1月	349	293
2月	160	101
3月	266	173
合計	5,171	3,752

※(前年度比 71.5%)

■滝野自然学園利用団体数

	団体数	(うち主催事業)
4月	4	0
5月	8	4
6月	12	4
7月	13	3
8月	8	4
9月	10	4
10月	9	4
11月	6	4
12月	6	5
1月	8	4
2月	4	4
3月	3	1
合計	91	41

※(前年度比 94.8%)

(5) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年 キャンプ事業	「幼保小連携モデル事業・なかよしキャンプ」 幼保小連携事業として、異校種間交流と異年齢交流の価値を持たせ、継続的な自然体験活動の中で、幼児には自主性や社会性等、5年生には上級生としての自覚や自信等を育成する事業を実施。	通年 4 回 (日帰り 3 回、 宿泊 1 回) 25 名
	「自然体験学習モデル事業・トライキャンプ」 滝野周辺の自然を活用したプログラム活動を通し、豊かな心と生きる力を育むことを目指し、学校の宿泊学習における秋・冬季のプログラム開発を兼ね自然体験活動事業を実施。	10 月(2 泊 3 日) 19 名
	「はじめてのスキーキャンプ」 スキー経験の少ない小学校就学前の年長児と低学年児童を対象とし、雪と親しむ・スキーの魅力を感じることを主な目的に宿泊型のキャンプ事業を実施。(共催：滝野すずらん丘陵公園管理センター)	1 月(1 泊 2 日) 35 名
生涯学習事業	「自然観察・ハイキング」 青少年山の家植物ボランティアとの協働で、子どもから大人までを対象とした自然観察事業を実施。広く市民の学ぶ意欲を支援するとともに、自然体験活動に対する必要性を普及する。	通年 (日帰り 4 回) 130 名
	「陶芸教室」 青少年山の家陶芸ボランティアとの協働で、子どもから大人までを対象とした陶芸体験事業を実施し、モノ作りの楽しさや素材の持つ特性等への理解を深める機会とした。	通年 (日帰り 6 回) 100 名
	「しめ飾り作り」 広く市民を対象とした「しめ縄飾り作り」の体験活動をとおり、日本の伝統文化への理解や興味関心を深める機会を提供し、青少年山を家の運営や事業への理解へつなげた。	12 月 (日帰り 2 回) 28 名
	「専門指導者・ワークショップ」 全国各地で講演・講師活動を行う野外教育や環境教育の専門家を招き、学校教員や野外教育指導者、青少年指導者等を対象としたワークショップを実施し、施設を中心としたネットワークの拡大を目指した。	2 月(日帰り) 17 名
	「ボランティアスタッフ活動」 「ボランティアスタッフフォローアップ研修」 野外、自然観察、天文、陶芸の 4 分野のボランティア活動の支援や活動場所の提供を実施。登録いただき活動するボランティアスタッフへ活動の機会を提供するとともに、フォローアップ研修として研修会を実施した。	通年 【ボランティア登録】 36 名 【活動人数】 延べ 149 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	「利用団体支援」 担当職員を利用される団体ごとに配置し、事前調整から当日利用の指導助言までの対応を行った。	通年 総団体数 524 団体
	「出前授業」「拡大出前授業」 宿泊学習の効果を高めるため、職員が小学校へ出向き事前指導をする「出前授業」を行った。	通年 132 校 9,841 名
	「活動プログラム開発および提供」 新たなプログラム開発としては、雪害で倒れた樹木を活用した丸太切り・丸太皮むきを行う倒木プログラムと自然観察ガイドブックの教材開発を行った。	通年
利用促進事業	「利用促進」 市内幼稚園、保育園向けに冬季の利用案内リーフレットを作成。また、プログラムの提案により次年度の歩くスキープログラムでの市内中学校の利用を誘致。 幼稚園・保育園利用：16 団体 663 名 中学校利用：22 団体 1,491 名	10 月～

【利用状況】

項目		合 計		
		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等	52	1,855	3,106
	小学校	476	28,354	45,254
	中学校	85	5,903	8,604
	高校	15	927	2,137
	盲聾養護学校	1	44	44
	専門学校	6	621	945
	大学	4	33	67
	その他の学校	4	146	271
青少年団体	少年団体	106	5,226	9,648
	青年団体	11	455	1,127
指導者団体	学校教育関係	0	0	0
	社会教育関係	10	216	343
親子		7	31	70
官公庁		30	2,269	4,714
その他		108	2,997	5,237
主催事業		34	1,223	1,335
計		949	50,300	82,902

※総利用人数(前年度比115.9%)

(6) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
利用促進事業	<p>「大人のためのプレミアムキャンプ」 他</p> <p>主に青年層を対象とした事業。大人のためのキャンプ（トレッキング、夜間の焚き火、野外での朝食）を実施した。また、当事業は地元地域の定山溪宿泊施設と連携し実施。</p> <p>【全7事業／ファミリーキャンプ、野外料理デモキャンプ、ガイト&サポート事業、やさしいシルバー山歩き、シルバーくつろぎ倶楽部、大人のためのプレミアムキャンプ、第3土曜日は工芸デイ】</p>	<p>165回</p> <p>2,204名</p>
交流促進事業	<p>「親子の自然遊び」 他</p> <p>野外活動を通じた子育て支援を実施。定山溪の豊かな自然とふれあい、参加者同士がともに遊び「自然遊び」に親しむ機会となった。また、運営の中心はボランティアが担った。</p> <p>【全5事業／キャンプファイヤー、期間限定特別プログラム、フルーツ・スイーツ倶楽部、親子の自然遊び、自然アート事業】</p>	<p>80回</p> <p>5,075名</p>
連携事業	<p>「地域連携事業」 他</p> <p>運営協議会等の地域ネットワークを活用し、周辺地域の魅力発信に努めた。豊平峡ダムと連携し、地域資源（流木を加工した炭）を活用した「ポップコーン作り体験会」を実施した。</p> <p>【全5事業／地域連携事業、定山溪フットパステイ、企業協賛事業、公的施設連携事業、野外系施設連携事業】</p>	<p>8回</p> <p>546名</p>
人材育成事業	<p>「ボランティア事業」 他</p> <p>シルバー世代を中心とした自然愛好者等の人材を生かし、自然体験プログラムの活動援助を通じたボランティア自身の自己実現を支援した。</p> <p>【全5事業／アクティビティ・ボランティア、天文ガイド・ボランティア、イベント・ボランティア、ボランティア自主研修会、森もりレンジャー】</p>	<p>185回</p> <p>816名</p>
PR事業	<p>「Nature Village フェスティバル」 他</p> <p>野外活動の最盛期に向け、施設の存在及び事業等を一斉にPRする機会として実施。キャンプ用品の紹介、クッキング講習会、プログラムの体験参加等で野外活動の魅力を紹介し、参加者の利用意識へつなげた。</p> <p>【全4事業／自然体験プログラムの出前事業、団体利用・プロモーション、事業プロモーション、Nature Village フェスティバル】</p>	<p>3回</p> <p>258名</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
プログラム開発 ・提案事業	<p>「広報・情報収集」 他</p> <p>札幌市及び報道機関への情報提供を行った。また、ホームページ、ブログ等の情報発信のツールを最大限に有効活用し情報提供に努めた。</p> <p>【全4事業／調査・研究事業、広報・情報収集等】</p>	随時
ガイド プログラム事業	<p>「薪・丸太割り体験会」 他</p> <p>各種自然体験プログラムの燃料として使用する薪材を作るプログラムを実施した。親子で協力し、自然木の丸太を割る体験を通して、施設運営協力意識の醸成を図った。</p> <p>【全7事業／森の工作会、ハンゴウ体験会、森の観察会、銀河の会、夜間プログラム、団体向けガイド事業、薪・丸太割り体験会】</p>	335 回 6,558 名
セルフ プログラム事業	<p>「ドラム缶風呂体験」 他</p> <p>火おこし、湯沸し、温度調整、後片付けの一連の工程を宿泊利用者が楽しむ機会を提供した。例年、人気の高い事業であり体験後、参加者から好評を得た。</p> <p>【全9事業／石窯料理体験、わくわくらリー、ドラム缶風呂体験、遊歩道チャレンジクイズ、アドベンチャーエリア&ミュージアムエリア、ペイント広場、アウトドア・クッキング、スノープログラム、セルフ はんごう タイム】</p>	465 回 4,719 名
自主公益事業	<p>「森林ガイド育成事業」 他</p> <p>豊平峡ダム自然観察教育林の森林保全及びその普及・啓発活動の担い手としての森林ガイド育成と、当活動に係る支援を実施した。森林ガイド修了者は「森の観察会」等でガイドとして活躍し、スキルアップを図ることができた。</p> <p>【全4事業／シルバートレッキング温泉&スイーツ堪能事業団体指導事業森林ガイド育成事業】</p>	22 回 521 名

【利用状況】		(件)	(人)
区 分	件数	人数	
宿泊施設の利用総数(a)	3,994	15,160	
コテージ	2,011	8,126	
テントハウス	778	3,666	
テントサイト	1,205	3,368	
見学者(b)	—	730	
総 利 用(a)+(b)	3,994	15,890	

利用件数(前年度 3,977件・前年比100.4%)

利用人数(前年度16,270人・前年比97.8%)

(7) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
農業体験事業	市立小学校及び中学校の学習活動の一環として、自然との関わりや仲間との共同作業を通して「生きる力」を育むため、各種農業体験を実施。	5～1月 5,701名 (延べ124校)
教材用生物の提供事業	市立学校・幼稚園における自然教育・自然体験学習を支援するために、昆虫・生物等の生物教材を希望により提供した。	6月 延べ684校
自然観察・採集等の学習機会の提供	動植物の観察や学習機会の提供、飼育体験を通じて学習館展示室の活用、利用促進及び自然観察等の啓発を行った。	5～3月(35回) 438名(178組)
自然体験学習機会の提供	季節に応じた農業体験・工作会・自然体験などを通じて札幌の自然環境について家族で学び、豊かな暮らしの発見と理解を図る。	5～3月(12回) 656名(179組)
自然体験・展示に関する情報収集・提供事業	市内幼稚園・各学校の自然体験教育に関する利用問い合わせに対応。また、事業パンフレット等での利用促進のための情報提供や、特別展示、南区シーニックバイウェイへの実施協力なども行った。	随時 標本展示等：7回
自主的な活動及び交流支援事業	市民のボランティア活動として、園内の花壇等の整備を中心に活動。市民ボランティア撮影による北方施設事業の写真展を実施。	通年、随時 登録人数：6名
自然体験や展示に関する相談事業	札幌の自然環境や昆虫飼育に関することなど市民からの相談について対応。その他専門分野については専門施設や学芸員を紹介。	通年、随時 相談件数：54件
自然観察、飼育栽培に関する研修事業	市立学校の教職員を対象に、自然観察、飼育栽培等に関する研修を実施。次学期の学習活動に活用できるように実施した。	8/15～16 参加人数：53名
地域連携事業	地域住民との関係づくりを図るため催し等への協力・参加。また、外部団体からの指導依頼として、野外活動における危険生物等に関する指導や札幌市の森づくりに関与しているNPO団体に対して野生動物対応についての指導依頼に応じた。	通年、随時 参加人数：40名 (指導対応2回)

【利用状況】

月	施設利用		体験農場		自然体験 学習会		自然ふれあい 事業等		その他事業等 (ボランティア等)		合計		事業	
	小計		小計											
	団体	人数	校数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数 (団体)	人数	組数	人数
4	2	366	0	0	0	0	0	0	0	0	2	366	0	0
5	9	1,522	7	492	39	146	36	73	0	0	91	2,233	75	219
6	39	2,838	25	1,653	10	38	51	153	0	0	125	4,682	61	191
7	25	2,019	17	981	42	164	20	47	5	5	109	3,216	67	216
8	11	1,341	6	364	50	186	32	81	0	0	99	1,972	82	267
9	26	1,730	16	830	0	0	3	9	0	0	45	2,569	3	9
10	32	1,992	24	1,311	2	8	9	20	5	5	72	3,336	16	33
11	24	313	20	54	12	37	8	9	0	0	64	413	20	46
12	8	49	4	7	17	54	4	7	0	0	33	117	21	61
1	8	139	5	9	3	9	5	14	0	0	21	171	8	23
2	1	118	0	0	4	14	6	13	0	0	11	145	10	27
3	3	159	0	0	0	0	4	12	0	0	7	171	4	12
合計	188	12,586	124	5,701	179	656	178	438	10	10	491	19,391	367	1,104

※利用団体(前年度比136.4%) ※利用人数(前年度比114.5%) ※事業参加人数(前年度比104.3%)

(8) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設】

①札幌市男女共同参画センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
学習機会の提供、学習成果及び指導者の人材育成	①「チャレンジ支援事業」	①4/1～3/31
	②「働く女性のためのキャリア支援」 起業を希望する女性への総合的な支援、就労中の女性のキャリア形成を目的として各種講座、相談等を実施。	456 名 ②12/11～3/30 15 名
	「女性に対する暴力をなくすための事業」 「女性に対する暴力をなくすための事業」講演会 他 DV や性暴力など、女性に対する暴力を許さない社会を作るため市民への意識啓発を実施。	11/12～26 81 名
	「困難な状況にある男女への支援事業」 「高齢女性の住まいとライフスタイルを考える講座」他 貧困、障害者など生活上困難に直面する人々への支援に関する講座、ネットワーク支援、居場所作りを実施。・	3/15 23 名
普及・啓発 情報収集・提供	「子ども・青年への男女共同啓発事業」 「週イチたまりんば(学生のピアサポーターによる居場所の提供)」他 中高生を対象に男女共同参画センターの役割を知る機会や気軽に立ち寄り安心して過ごせる居場所を提供。	4/20～3/15 128 名
	「男性のためのエンパワーメント事業」 「男性向けサークル事業」他 男性に対する男女共同参画の意識啓発講座を実施。	10/11～3/31 216 名
	「男女共同ワークショップ事業『出張講座』」 男女共同参画の意識を高めることを目的に、民間企業・市民グループなどへ出向いて講座を実施。	8/7～11/17 68 名
	「ファシリテーター養成」 男女共同参画の意識や理解を広げるためにファシリテーターを養成。今年度は、講座は実施せず養成本の販売によるノウハウの提供を行った。	4/1～3/31 販売冊数：10 部
	「その他事業」 ・ホームページ・インターネット活用事業 ・事業に関する発行物の作成（リーフレット等）	4/1～3/31 HPアクセス数:87,438 件 発行部数：11,000 部
	「子育て支援事業」 男女共同参画の視点から主催事業に対する託児の実施。	6/7～3/26 80 名
市民活動・交流の支援、ボランティア活動の支援・活用	「男女共同参画活動支援事業」 男女共同参画活動団体の活動支援、企画事業の実施、交流会の機会の提供。	5/17～2/14 2,514 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
	「ワーキングマタニティスクール」 勤労初妊婦とその配偶者を対象とした、育児に関する知識の普及・啓発と情報提供等を、共催事業として実施。	5/12～3/10 334 名
相談業務	「女性のための各種相談」 「総合相談、法律相談、仕事の悩み相談」 女性の経済的・社会的自立の促進、人間関係の問題等の解決を目的とした相談窓口を開設。	4/2～3/30 652 件
	「相談検討会議」 相談事例に基づく対応のあり方の検討や相談員との連携を深めるため、情報提供や研修等を実施。	3/27 5 名
	「男性のための悩み相談事業」 自殺の抑止を図ることを目的に、男性が抱える悩みを電話相談できる窓口を開設。	4/2～3/29 61 件
その他	「全国女性会館協議会全国大会」 情報・意見交換及び研究協議の機会として会員館との共同開催。	10/11～12 235 名

②札幌市市民活動サポートセンター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
情報収集提供・ 相談に関する 業務	「市民活動相談」 市民活動の促進を図るため、市民活動に関する一般相談及び広範囲な活動に係る相談を実施。	4/1～3/31 1,306 件
	「相談員研修」 改正 N P O 法に関する事例の共有や的確な情報提供のための研修を実施。	6/25・1/22 18 名
	「さっぽろまちづくり総合情報ポータル」の運営 まちづくり活動を行う市民活動団体の活動取材を通して、小学生の視点から N P O 団体の活動意義や必要性を発信。	1/26～27 4 名
	①市民活動情報誌の発行 ②メールマガジンの発行	①各号 5,000 部 ②全 45 回
研修学習に関する業務	「ポイント支援講座」 「N P O 法人の会計基準」を学び、N P O 法と N P O 会計についての理解を深める機会の提供。	8/28・9/1 延べ 35 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流活動支援に関する業務	<p>「サロン事業」</p> <p>①「いろいろあります！市民活動＝社会活動」</p> <p>市民活動団体が別の団体や市民、企業、行政などと交流や情報交換を行う場を提供することを目的に団体の活動についてプレゼンテーションを行う事業を実施。</p> <p>*その他 ②「ミッションPR」 ③「ミッションPR パネル展」</p>	<p>①9/8</p> <p>10 団体 134 名</p> <p>②10/28～2/27</p> <p>(全 7 回) 89 名</p> <p>③3/28～31</p>
団体活動支援に関する業務	<p>「情報センターとの連携」</p> <p>図書の活用による連携を図ることを目的として、市民活動関連の書籍の選定および関連図書の紹介や展示を実施。</p>	4/1～3/31
	<p>「札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会」</p> <p>札幌市市民活動サポートセンターの事業運営等に市民の専門的かつ幅広い意見を反映することを目的に実施した。</p>	6/22・12/7 延べ 19 名
	<p>「さっぽろまちづくり総合ポータル運営委員会」</p> <p>①「公募委員選考委員会」</p> <p>②「さっぽろまちづくり総合情報ポータル運営委員会」</p> <p>市民活動サポートセンターのHP「さっぽろまちづくり総合情報ポータル」の効率的な運用を行うために実施。</p>	①8/30 1 名 ②8 月・9 月・2 月 (全 3 回)延べ 15 名
	<p>*その他</p> <p>①「事務ブースの提供」</p> <p>②「事務ブース入居団体交流会」（共催事業）</p>	

③札幌市環境プラザ

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
環境情報の収集・提供	<p>ホームページの活用</p> <p>環境プラザホームページ内のキッズページにおける提供情報の拡充と機能強化。</p>	通年
環境保全活動、交流支援と推進業務	<p>環境教育リーダー</p> <p>小学校の総合学習などに学習支援や解説を行う人材の派遣を実施。市民の自主的な環境保全活動の促進を図った。</p>	通年 5,620 名
	<p>環境保全アドバイザー</p> <p>環境保全に取り組む市民団体等に「環境保全アドバイザー」を派遣。市民の自主的な環境保全活動への助言を実施。</p>	通年 2,322 名
	<p>講師派遣広報</p> <p>講師派遣パンフレットの発行により、環境保全アドバイザーおよび環境教育リーダー派遣紹介を実施。</p>	通年 4,000 部

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
	こどもエコクラブ/クラブ交流会 子どもたちが身近な環境に興味を持ち、環境に対する視野を広げることや、日常生活に取り入れることを目的として実施。	6月～3月 延べ 136 名
環境教育・学習の推進業務	ESD 促進事業 専門家の講話と対談による具体的な情報提供を実施。	3/22～31 全 3 回 延べ 90 名
	環境関連施設連携事業 豊平川鮭科学館との連携事業の実施。	11/11 4 組(10 名)
	*その他 ①教育機関への学習支援事業 ②見学対応事業 ③展示物学習支援事業	通年 1,234 名(53 件)
普及啓発企画業務	大学等連携事業 「野あそびブック」という書籍をプログラムの軸に、野あそびのきっかけや自然への関心を引きだす事業を展開。	8/30～2/28 (全 6 回) 延べ 81 組(171 名)
	展示コーナーの活用事業 主に小学生の来館者を対象に、月別のテーマにより楽しみながら環境を学ぶ機会を提供。	通年(毎週土曜日) 1,706 名
その他の業務	各種相談事業 環境保全に関する多岐・多種にわたる問題に対し専門の相談員が応え環境保全活動の啓発・促進を図ることを目的に実施。	通年(月・水・土) 相談件数：85 件
	アウトリーチ事業 市内の環境関連イベントや関連施設へ出向き、体験プログラムや展示を実施。	6/23～2/7 (全 7 回) 延べ 9,023 名

④情報センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
情報活用事業	インフォメーションリテラシー講座 情報の取捨選択力の重要性を伝え、市民の情報収集能力、活用能力の向上を目的に実施。 ①子育てからみるインフォメーションリテラシー講座 ～情報に振り回されない私らしい子育てを目指して ②U25 の！ネガが変換で広がる SNS 活動	8/25～1/28 (全 2 回) 27 名
	情報活用 IT 事業 情報発信・情報受信のためのツールやその使用方法を学び、レベルに応じた情報提供を実施。	5/23～10/30 (全 2 回) 50 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
情報交流事業	読書会 イベントスペースの周知を図り、利用率の向上につなげるため、「男女共同参画」「消費生活」「市民活動」「環境保全」の4分野の図書を用いて利用者同士が交流する場として、ビブリオバトルやアニメーション講座を行った。	4/24～3/13 220名
学習支援・啓発事業	ブックトーク 4分野の情報に対する認識を深めることに併せて、図書貸出、利用者増につなげることを目的として実施。関係分野で活躍する著者や関連団体などを迎え、所蔵資料に関連するトークを行った。	5/24～3/26 (全4回) 158名
	専門性アップ事業 情報センターが取り扱う分野に関連する情報と市民を結びつけるため、ヒューマンライブラリの手法を用いた講座や専門性を高める啓発イベントなどを実施。	8/5～3/16 (全5回) 46名
	普及啓発広報事業 4分野の啓発が市民または全国へ浸透することを目指した情報発信のため、情報センターで貸出している図書を分野、テーマごとに分けて紹介する冊子を作成、配布した。	3,000部
学習支援・啓発事業	ライブラリーサロン 4分野の活動団体の成果発表や活動推進のために情報センターの情報発信スペースを提供。市民活動団体が主体的に運営する展示やイベントの開催、情報発信を行った。	4/12～2/14 14団体
	特別展示事業 4分野に関する周知啓発と利用率向上のため、図書や関連情報の特別展示を実施。また、札幌で行われた本に関するイベントに参加し、蔵書の展示貸出を行った。 ①札幌ブックフェス 2012 大通ワン・デイ・ブックス ②札幌ブックフェス 2012 ミセナカ書店	4/1～3/31 ①9月 ②9月30日 209名
	社会貢献活動推進事業 情報センターが取り扱う分野に関連した企業の社会的貢献活動のPRの場として情報センターを活用し、企業と協働で市民に4分野に関する啓発を行った。協働実施：日本テトラパック株式会社 ①「災害への備えはできていますか？防災備蓄品～防災備蓄牛乳（LL牛乳）の大切さ」展示 ②防災セミナー「家庭でできる防災対策」	①1/11～3/15 (全20日間) 5,581名 ②3/11 49名
図書等貸出・図書管理業務	図書等貸出/図書管理事業 蔵書を適切・公平に市民に提供。資料の購入・装備・登録を適切に行った。また、状況に応じて蔵書の修繕・廃棄などを行った。	4/1～3/31 貸出冊数： 13,555冊

⑤札幌エルプラザ公共施設（共通）

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
賑わい創出事業	北8条アマとホップのフラワーロード事業 公共4施設、地域・企業・行政などが協働で地域の企画に参加。連携と公共4施設の広報を目的に、実行委員会と協働で札幌エルプラザ前花壇および施設周辺花壇に「アマ」と「ホップ」の植栽を実施。活動を紹介する「亜麻フォーラム」を開催。	5月末～11月 42名 フォーラム参加人数： 260名
	スノー・アイスクャンドル大作戦 利用者および利用団体間の交流を促進するとともに、点灯期間中における冬の「癒し空間」を演出し札幌エルプラザ公共4施設の周知を図る。	2/4～11 33名
	キャンドルナイト事業 世界的イベントであるキャンドルナイト事業を市民に広く周知し、一人でも多くの人に地球環境について考えてもらうことを目的に夏至の日にイベントを開催。	6/21 76名
	エルプラまつり 市民活動団体同士、また一般市民・地域・企業・行政等と交流を図る機会を提供し、市民活動の普及、啓発を図ることを目的に実施した。同時開催「まちづくりフェスタ2012」（主催：札幌市）	9/8 7,766名

【利用状況】

区分		施設利用	相談事業	施設・見学	展示	総合学習	施設外事業	合計
男女共同参画センター	件数	30,929	－	9	－	－	4	30,942
	人数	361,347	649	95	－	－	644	362,735
消費者センター	件数	3,536		7	－	－		3,543
	人数	45,067	12,123	120	－	－		57,310
市民活動サポートセンター	件数	25,178		38	－	－	7	25,223
	人数	68,090	1,307	142	－	－	10,252	79,791
環境プラザ	件数	2,069		35	－	－	19	2,123
	人数	24,761	84	1,095	39,151	1,675	11,664	78,430
合計	件数	61,712	0	89	0	0	30	61,831
	人数	499,265	14,163	1,452	39,151	1,675	22,560	578,266

情報センター来館者	人数	92,661
-----------	----	--------

平成24年度札幌エルプラザ 公共4施設総利用者数	670,927
-----------------------------	---------

※総利用者数(前年度比 112.6%)
 ※情報センター来館者数(前年度比 215.7%)

(9) 市民参画課【受託事業：市民活動プラザ星園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
協同実施事業	ロビー活用事業 市民活動プラザ星園の入居団体および地域との交流を深める。	11月～3月 80名
	社会的包摂ワンストップ相談支援事業 地域センター札幌(8団体連携)の立ち上げとよりそいホットライン(電話相談)を国からの事業受託という形で実施	通年 191日開設 【電話相談件数】 6,294件
	人材育成事業 有償トレーニングとして星園館内の清掃1日2名で年末年始の休館日以外の全日実施。除雪は、駐車場を25日間実施。	通年 清掃 716名 除雪 50名
	人材育成事業(協力団体との共催事業) 大通街づくり会社と協力し、だいどんでん(ストリートパフォーマンスカーニバル)の企画立案・実施を通し若者の人材育成を図る。	通年
	星園祭り 活動スペース入居団体と共に星園の施設及び活動のPRを行う。	10/14 延べ250名
	地域協同事業 入居団体と共に豊水地区第五町内会主催のゴミ拾い活動に参加し、地域との連携を深める。	4/22 8名
	市民活動サポートセンターサテライト事業	
市民活動サポ ートセンターサテ ライト事業	サテライト事業/まちづくり人材育成事業 他団体との協力し実行委員会形式により、フィンランドDAYS vol12「フィンランドの子ども・若者教育の実態に触れる」を実施。	6/1 40名(スタッフ含む)
	NPO インターンシップ 市民活動プラザ星園の入居団体「エニシング」のロビー事業に、札幌サポステの利用者がインターンシップ体験を行った。	2/25 20名
	サロン事業 星園まつりを活用して、各団体のPRコーナーを設置。	

【利用状況】

	活動スペース			貸室						合計
	入居団体	管理団体	小計(A)	会議室大	会議室中	会議室小	活動室	PC研修室	小計(B)	
件数	-	177	177	78	189	182	299	145	893	1,070
人数	48,295	1,547	49,842	3,049	4,086	1,501	10,341	5,818	24,795	74,637

※＜参考＞前年度利用人数10,766名(年度途中に開館した為、統計数は8～3月の8ヶ月間分)

【事業利用件数】

自主事業	353
後援事業	0
合計	353

(10) こども劇場課【指定管理事業：こどもの劇場やまびこ座・こども人形劇場こぐま座】

①やまびこ座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業 (一般対象)	「東区市民劇団育成事業」 主に東区在住の一般市民から公募し演劇ワークショップを実施。 市民劇団「オニオン座」を立ち上げ、その成果発表の公演を実施。	6/26～9/30 372 名
	「人形浄瑠璃講習会」 18 歳以上を対象の人形浄瑠璃講習会。人形浄瑠璃の特殊な操作方法である「三人遣い」を学ぶ。あしり座との共催事業。	6/19～2/17 217 名
	「義太夫講習会」(一般クラス) 18 歳以上を対象に人形浄瑠璃の義太夫・三味線の講習会を実施。	4/12～2/17 327 名
人材育成事業 (子ども対象)	「やまびこ座遊劇舎」 小学 3 年生～6 年生対象、劇あそびや表現あそびなどを通して、 舞台表現、演劇表現などを体験。	通年 956 名
	「劇☆やまびこ座 YOUTH」 中学生・高校生を対象とし、劇づくりを通して表現する喜びや自 主性、異年齢間の交流を目的とした演劇活動を実施。	通年 523 名
	「こども舞台体験プログラム『ふれアート』」 日本の伝統や心に触れる機会を提供するとともに、地元劇場とそ こで取り組んでいる舞台芸術に親しみを持ってもらうために実 施。(人形浄瑠璃三人遣い体験、義太夫・三味線体験、鳴物体験、伝統文化舞台裏方体験)	9/1～1/14 193 名
	①「ざ・にんぎょうじょうりゅースクラス」(中高生の人形浄瑠璃講習会) ②「義太夫講習会」(中高生クラス)	①6/19～12/2 155 名 ②5/10～2/17 15 名
公演事業	「やまびこ座プロデュース公演」 劇場の主催講座「東区市民劇団」「遊劇舎」の参加者と公募の新 人によるプロデュース児童劇の第 5 回公演を実施。市内で活躍す る舞台人と協働し子どもの心に響く創作演劇の制作、上演を実施。	3/22～24 517 名
	「夏休み・冬休み・春休み特別公演」 子どもたちの長期休みを利用し、普段あまり観る事のできない、 道内外の専門劇団を招待し特別公演を実施。	7/25～8/1・1/17～ 18・3/25～26 1,743 名
	「座・競演 V o 1.3」 北海道には数少ない伝統人形芝居を一人でも多くの方に観劇し ていただき、なじみの少ない古典芸能の良さを広く道民に伝える。	10/20～21 276 名
	①「やまびこ座夏まつり公演」※祭りのプログラムの中で連続公演を実施 ②「第 20 期やまびこ座遊劇舎発表会」 ③「人形浄瑠璃講習会・義太夫講習会発表会」	①8/11～12 652 名 ②12/16 190 名 ③2/16～17 118 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
地域連携事業	「やまびこ座指導事業『砂川人形劇創作体験プログラム』」 子どもの表現活動の指導者を砂川市地域交流センターゆう（NPO法人ゆう）にやまびこ座より指導者を派遣。団体と劇場の協働により人形劇講座を実施。劇団育成を図った。	10/16～3/20 610 名
	「児童のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」 学校現場において児童生徒に対し、芸術家による表現方法を用いた計画的、継続的なワークショップ等の実技指導を実施。芸術を愛する心、豊かな情操を養いコミュニケーション能力の育成を図る。	8/30～31・9/18 354 名 会場：札幌市美しが丘小学校
	「こども人形舞台祭典 2013 in ISHIKARI」 文化活動を通して、想像、コミュニケーション力を養い、人間性豊かに共に育ちあう関係・環境づくりを目的に石狩管内の関係機関と協働で実施。北広島・恵庭市では人形劇の連続公演及びワークショップ「こども人形劇舞台祭典 2013」を実施。江別市、恵庭市へは、人形劇団の派遣事業（人形劇キャラバン）を実施した。	1/20・2/26・ 3/4～29 1,357 名
	①「2012 やまびこ座夏まつり」(2,342 名) ②「元町北小学校アウトリーチ事業」 (1,749 名) ③「読み語りの会」(777 名)	①8/11～12 ②9/6～12/19 ③通年
その他の事業	「人形劇公演観劇スタンプラリー」 スタンプカードを発行し、観劇回数によって指人形プレゼントの特典をつけることで観客者の新規開拓、リピーターの増加、上演活動の活性化を図る。人形劇団と協働しながら企画実践。	通年 2,883 名

②こぐま座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業 (一般対象)	「初心者の人形劇講座」 人形劇の楽しさを知ってもらうことにより底辺の拡大を図り、人形劇人の育成、グループ活動を推進し、こぐま座、やまびこ座両劇場の公演活動の活性化を図る。	4/26～7/22 199 名
	「経験者の人形劇講座」 各劇団に対し、講座、公演の機会を設定し人形劇活動を支援し、人形劇人の育成、グループ活動の推進を図る。	5/8～10/8 551 名
	「やまびこ座、こぐま座共催事業」 専門家を招聘し、こどものための表現活動に関する短期講習会を実施。実践を通して技術を学ぶ場として、こどもの文化の担い手を育成する。(パネルシアター、手遊び講習会) 主催：札幌人形劇協議会	9/2 16 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
	*その他 ①「手づくり絵本講習会」 ②「腹話術初心者入門講座」	①8/18～19 51名 ②10/30～11/1 40名
人材育成事業 (子ども対象)	「こぐま座こども人形劇団」 市内の小学校3年生から6年生を対象に、人形劇を通して、様々な表現活動を展開。子どもたちならではの作品づくりを行った。	5/23～3/20 523名
	「こぐま座パペットユーススクール」 中高生のための人形劇スクール。中高生の受け入れの場として開講し、中高生劇団の育成を目指していく。	6/2～11/25 157名
公演事業	「ゴールデンウィーク特別企画・東日本大震災チャリティー公演『こどもの日パペットフェスティバル』」 アマチュア人形劇団に協力していただき人形劇等の連続公演の他、工作会を実施。市民参加型企画。入場料は全額義援金とする。	5/3～6 323名
	①「幼児のためのちいさな劇場」 ②「夏休み特別公演～京都・奈良・札幌・岩見沢人形劇団交流公演」 ③「初心者のための人形劇講座 修了記念公演」(3団体) ④「13!スクランブルシアター」(13劇団) ※各講座の合同発表公演 ⑤「こぐま座こども人形劇団発表会」	①4/25～2/28 704名 ②7/31～8/1 352名 ③7/22 125名 ④10/6～8 372名 ⑤3/17 100名
中島児童 会館協働事業	「中島児童会館・こぐま座開館記念祭～かもくま祭～」 中島児童会館との協働事業。7月の開館記念日を記念し、施設を利用している団体や個人、ボランティアスタッフの協力のもと、遊びのコーナーを設け、市民を対象に2施設の特徴を紹介。	7/1 575名
	*その他 ①「あそびの劇場《冬の陣》」 ※ごっこあそびとウォークラリー ②「中島児童会館・こぐま座歴史探訪」 ※資料、物品、人形展示等。 ③「初心者のための読み語り入門講座」	①1/17 21名 ②7/1～29 624名 ③11/2～12/13 136名
地域、他団体と の交流事業	「やまびこ座・こぐま座プロデュース人形劇巡回公演」 阿寒観光協会と共同で制作した、アイヌ民話人形劇「ふんだりけったりクマ神さま」の巡回公演を実施し、人形劇団のレベルアップにつなげる。	6/9～10・9/3～5・1/27 27名 会場：岩見沢市民交流施設他
	「札幌市教育文化会館共同制作人形劇『OKHOTSK～終わりの楽園』」 札幌劇場連絡会の加盟施設との人形劇共同制作。人形製作、劇指導、共演等を行った。やまびこ座、こぐま座の持つ人形劇の専門性を外部にPRするとともに、新たな創造の可能性を探る。	8/22～3/6・3/9～10 272名 会場：札幌市教育文化会館大ホール
その他事業	①「人形劇公演観劇スタンプラリー」 ②「こぐま座利用者懇談会」	①通年 4,270名 ②3/13 18名

■こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区 分	件 数 (件)	人数(人)	
ホール	714	26,737	室利用総人数 44,845
会議室	410	2,903	
研修室	567	8,157	
美術工作室	531	7,048	
ロビー・展示室・図書コーナー	—	10,327	
研修・見学	—	393	
総 利 用	2,222	55,565	

利用件数 (前年度 2,258件・前年比 98.4%)

利用人数 (前年度 55,865人・前年比99.5%)

(ホール利用内訳)

観劇者数	無料(人)	1,158
	招待(人)	1,135
	有料(人)	14,268
	合計(人) ... (a)	16,561
出演者の数(含むりハーサル)(人)	... (b)	10,176
出演者観劇者総数(人)	... (a+b)	26,737
上演回数(回)		224
上演日数(日)		143
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		153
上演1回あたりの観劇者数(人)		74

■こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況 (ホール利用内訳)】

観劇者数	無料(人)	1,336
	招待(人)	414
	有料(人)	8,616
	合計(人) ... (a)	10,366
出演者の数(含むりハーサル)	... (b)	4,620
出演者観劇者総数	... (a+b)	14,986
研修・見学	... (c)	1,089
利用者総数	... (a+b+c)	16,075
上演回数(回)		235
上演日数(日)		158
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		242
上演1回あたりの観劇者数(人)		44.1

利用人数 (前年度 15,708人・前年比 102.3%)

5. 契約に関する事項 (契約金額 1 千万円以上)

(1) 指定管理事業

単位：千円

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長 上田文雄	2,196,763
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長 上田文雄	42,600
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長 上田文雄	126,110
札幌市ポプラ若者活動センター管理業務	札幌市長 上田文雄	26,029
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	73,102
札幌エルプラザ公共 4 施設管理業務	札幌市長 上田文雄	233,280
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	122,730
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	28,108

(2) 委託事業

単位：千円

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長 上田文雄	926,426
札幌市児童会館障がい児対応充実業務	札幌市長 上田文雄	79,149
札幌市児童会館中・高校生夜間利用等運営業務	札幌市長 上田文雄	82,438
さっぽろ若者サポートステーション事業	厚生労働省	23,240

6. こども基金 (スマイルキッズ)

(1) 協力者一覧

寄付金総額 586,206 円 全 48 件

【法人】 2 件

寄付者氏名	寄付額
株式会社ハビングループ	100,000 円
鹿住工務店株式会社	30,000 円
合 計	130,000 円

【団体】 22 件

寄付者氏名	寄付額
人形劇団プラスワン	10,000 円
人形劇団ぼっけ	10,000 円
人形劇団グ・こぶた	10,000 円
人形劇団ぼけっと	10,000 円
真駒内本町町内会	10,000 円
人形劇団ばびぶ	10,000 円
新発寒ふれあい夏祭り実行委員会	10,000 円
こどものしろ	10,000 円
南平岸第八町内会	10,000 円
ふじの健康クラブ	10,000 円
藤野地区民生児童委員協議会他 11 件	52,206 円
合 計	152,206 円

【個人】 24 件

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	304,000 円
合 計	304,000 円

(2) 平成 24 年度助成実績

事業名	実施団体	助成金額
ウガンダ AIDS 孤児たちとのふれあい交流事業	NPO 法人 Peace	494,667 円
人形劇フェスティバル 2013 年さっぽろ冬の祭典	札幌人形劇協議会	200,000 円
小学生のための花育	NPO 法人コミュニティワーク 研究実践センター	295,273 円
合 計		989,940 円

Ⅲ. 事 務 報 告

1. 設立年月日 : 昭和 5 5 年 4 月 1 日

2. 寄附行為に定める目的

この法人は、主として札幌市の青少年女性を中心とするグループ活動の振興を図り、もって青少年の健全育成と青少年女性の社会参加の促進を図ることを目的とする。

3. 寄附行為に定める事業内容

- (1) グループ活動の指導業務
- (2) 指導者の養成及び登録派遣業務
- (3) グループ活動プログラムの企画立案についての相談業務
- (4) グループ活動に関する調査研究及び資料の発行業務
- (5) 福祉事業等に対するボランティア活動業務
- (6) 青少年女性関係諸施設の管理業務
- (7) その他前各号に掲げた業務に付帯する業務

4. 所管官庁に関する事項

北海道教育委員会（事務局：北海道総務部 行政改革局法人団体課）

5. 主たる事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 1 0 号

6. 役員等に関する事項

(1) 理事会

理事長	岡 村 龍 一	(財)札幌市青少年女性活動協会 理事長
副理事長	忍 博 次	北海道社会福祉協議会 副会長理事
理 事	佐々木 和 宏	(社)札幌青年会議所 元理事長
理 事	佐 藤 和 子	札幌市女性団体連絡協議会 会長
理 事	相 馬 宏 哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン理事長
理 事	谷 暎 子	児童文化研究者
理 事	西 田 史 明	札幌商工会議所総務部総務課次長
理 事	前 田 元 照	(一社)札幌市私立幼稚園連合会会長
監 事	石 原 聰	北海道経営者協会 元事務局長
監 事	梅 津 太	税理士

[平成 25 年 3 月 31 日現在 計 10 名]

平成 24 年度における理事会は、次のとおり 3 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 24 年 6 月 21 日	1 平成 23 年度事業報告 2 平成 24 年度収支決算報告 3 平成 24 年度収支予算の変更 4 評議員の選出 5 評議員選定委員の選任 6 最初の評議員候補者の選任（変更）	1 可決 2 可決 3 可決 4・5 可決 6 可決
平成 24 年 11 月 28 日	1 公益認定申請の件 2 役員及び評議員の報酬等ならびに費用に関する規程 3 新制度における代表理事・業務執行理事	1 可決 2 可決 3 可決
平成 25 年 3 月 14 日	1 平成 24 年度収支予算変更 2 平成 25 年度事業計画 3 平成 25 年度収支予算	1 可決 2 可決 3 可決

(2) 評議員会

評議員	石 垣 寿 枝	(社)札幌市子ども会育成連合会 常務理事
評議員	上 田 厚 子	(社)札幌市母子寡婦福祉連合会 会長
評議員	大 木 光 恵	NPO 法人ぷろぐれっしょん 代表理事
評議員	加 藤 喜久子	北海道情報大学 教授
評議員	川 端 美 樹	札幌市 P T A 協議会 副会長
評議員	菊 池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事長
評議員	小 林 元 治	札幌市民生委員児童委員協議会 理事
評議員	杉 岡 直 人	北星学園大学 教授
評議員	瀧 上 春 男	(財)北海道青少年育成協会 専務理事

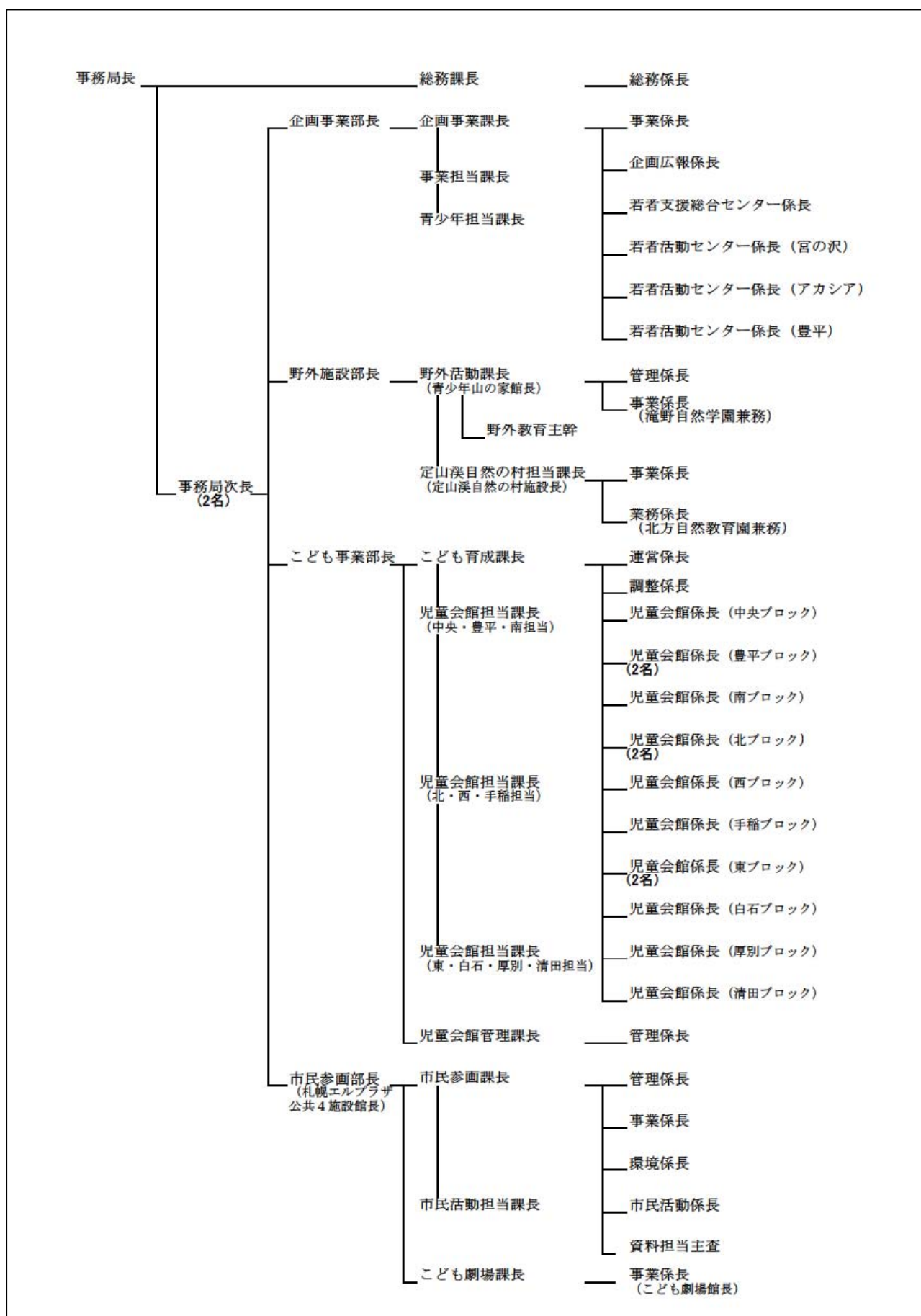
[平成 25 年 3 月 31 日現在 計 9 名]

平成 24 年度における評議員会は、次のとおり 3 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 24 年 6 月 21 日	1 平成 23 年度事業報告 2 平成 23 年度収支決算報告 3 平成 24 年度収支予算の変更	1 可決 2 可決 3 可決
平成 24 年 11 月 28 日	1 公益認定申請の件 2 役員及び評議員の報酬等ならびに費用に関する規程 3 新制度における最初の理事・監事	1 可決 2 可決 3 可決
平成 25 年 3 月 14 日	1 平成 24 年度収支予算変更 2 平成 25 年度事業計画 3 平成 25 年度収支予算	1 可決 2 可決 3 可決

7. 職員に関する事項（平成 24 年度末現在）

平成 25 年 3 月 31 日現在における事務局組織は次のとおりである。



(1) 主要な職員

役職名	氏 名	採用年月日	担 当 職 務
事務局長	齋 藤 彰	平成 22 年 5 月 10 日	事務局の総括
事務局次長	大 川 泰 尚	昭和 55 年 4 月 1 日	} 事業部門の総括
事務局次長	谷 山 正 司	平成 23 年 4 月 1 日	
こども事業部長	寺 田 陽 子	昭和 56 年 11 月 1 日	こども育成課・児童会館管理課業務の総括
市民参画部長	岩 寄 義 純	昭和 63 年 6 月 1 日	市民参画課・こども劇場課業務の総括
総務課長	生 出 裕 一	平成 3 年 3 月 1 日	総務・財務・労務・経理等の総括
企画事業課長	井 崎 光 男	昭和 61 年 4 月 1 日	企画事業課業務の総括
事業担当課長	石 井 一 彦	平成 2 年 4 月 1 日	自主事業の実施等総括等
青少年担当課長	穴 澤 義 晴	平成 2 年 4 月 1 日	若者支援施設の総括
野外活動課長	齋 藤 隆 仁	昭和 61 年 4 月 1 日	野外活動課・滝野自然学園の総括
定山溪自然の村担当課長	下川原 清 貴	平成 2 年 4 月 1 日	定山溪自然の村の総括
こども育成課長 (児童会館管理課長兼務)	五十嵐 健 二	平成 4 年 3 月 21 日	こども育成課・児童会館管理に関する総括
児童会館担当課長	斉藤 隆弘	昭和 62 年 2 月 1 日	児童会館 (中央・豊平・南担当)
児童会館担当課長	佐々木洋一郎	昭和 57 年 4 月 1 日	児童会館 (東・白石・厚別・清田担当)
児童会館担当課長	志 賀 和 行	平成 1 年 12 月 1 日	児童会館 (西・北・手稲担当)
市民参画課長	岡 本 峰 子	平成 2 年 4 月 1 日	エルプラザ公共 4 施設業務の総括
市民活動担当課長	蓮 井 潤 子	平成 5 年 4 月 1 日	市民活動に関する調整

(2) 職員数

職員数合計 1, 130名

〔事務局長・事務局次長〕

札幌市OB	2名
-------	----

〔主任指導員〕

職 員 数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	71名	3名増	42歳6ヵ月	16年2ヵ月
女性	80名	4名減	45歳8ヵ月	14年8ヵ月
合計又は平均	151名	1名減	44歳3ヵ月	15年5ヵ月

〔その他〕

指導員	3 9 2 名	臨時職員	1 5 4 名
専門指導員	7 4 名	パートスタッフ	3 1 9 名
再任用職員	8 名		
パートスタッフ	3 0 名		
常勤職員数 ①	5 0 4 名	非常勤職員数 ②	4 7 3 名
合 計 (①+②)			9 7 7 名

8. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：平成25年5月27日受理）

